



# 紛争の被害に あうって、 どんなこと？

あなたと私にできるシリア支援

# 救急ボランティア シリア、戦火の中で

2015年11月に来日した、シリア赤新月社ボランティアのラワン・アブドゥルハイさん。彼女自身も自分や兄弟の家を爆撃により破壊された紛争の被害者の一人です。それ以前、ラワンさんは海外での活躍を夢見てシリア国内の大学で通訳の勉強をしていました。在学中に紛争が激化したため学業を中断し、現在はボランティアとしてシリア赤新月社の救護活動に従事しています。



ラワン・アブドゥルハイさん

1986年シリア生まれ。シリア紛争前の2009年からシリア赤新月社ボランティアとして、お年寄りや孤児への福祉活動、サッカー大会での救護員などを行っていた。紛争発生後は、戦闘地域を含むシリア各地での物資配布や傷ついた子どもたちへのこころのケア、救急車に乗る救急隊員などのボランティアを行っている。

シリアでの救護活動の様子。中央がラワンさん ©SARC

## ボランティアで救急隊へ

私がシリア赤新月社の救急隊ボランティアになったのは、2013年ごろです。当時、シリア国内は既に内戦状態でした。救急隊員になった時は、血を流している人や死んだ人の体を触ることができるか私は心配でした。3回目の出動で、爆弾が落ちた直後の現場に向かう救急車に乗りました。炎を上げて燃える中、血を流し倒れている人たちに応急処置をし、救急車に乗せ病院に搬送しました。現在も活動を続けており、今は救急隊のチームリーダーをしています。現場では、何も感じないように感情のコントロールをして救護活動に集中しています。しかし、事務所に戻り、救急車から降りると血の臭いや、現場で本当は感じていたことなどがよみがえってきます。自分の見た光景が忘れられないことが何日も続く時もあります。

## 48人\*の仲間の死

私の友人であり救急隊のチームメイトの一人、モヒはもうすぐ結婚する予定の婚約者がいました。ある日、彼は当直が終わって家に帰る途中、爆発音が聞こえたので現場に駆けつけると傷ついた人たちがたくさんいました。彼が救護活動を行っているとき次の爆弾が爆発し、それに当たってしまいました。私たち救急隊チームは現場付近まで駆けつけましたが、現場は「危険なエリア」として入ることができませんでした。ようやく近づくことが許され駆け寄った時には手遅れでした。本当にいい仲間だったのに、私たちは何もできずに彼は目の前で亡くなりました。私たちのチームでは48人の仲間が命を落としています。私たちの生活は、危険と隣り合わせです。でも、私は私でいるために、救護活動を続けます。

\* 2015年11月時点の数字。2016年8月には53人にのぼっています。

## シリアを忘れないで

内戦によって、シリアは全てを失いました。今、私はシリアにいて、できる限りのことをしています。報道機関は国内に入りにくいので、なかなか世界に情報が伝わりません。しかし、シリア国内には私たちのような普通の人が住み、大勢の人が苦しんでいることを忘れないでほしいです。

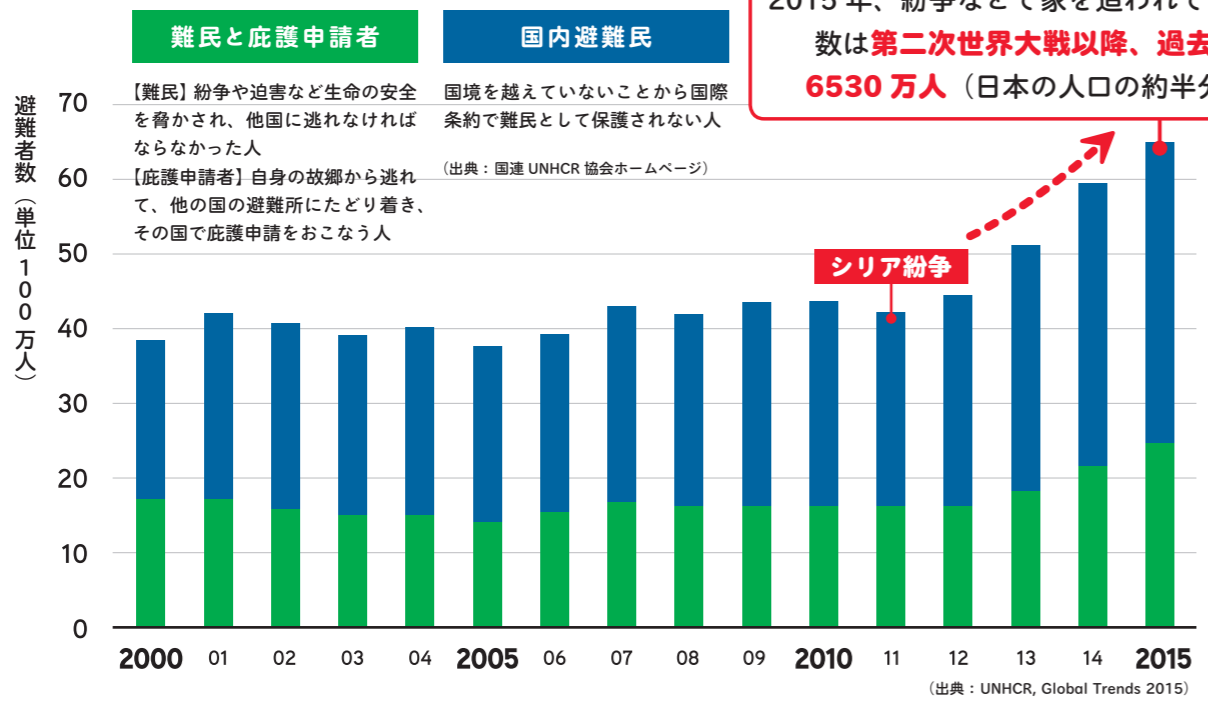
動画リンク : <https://www.youtube.com/watch?v=ORFSRpSoQxw>



知っていますか？

# 世界で増え続ける 家を追われた人びと

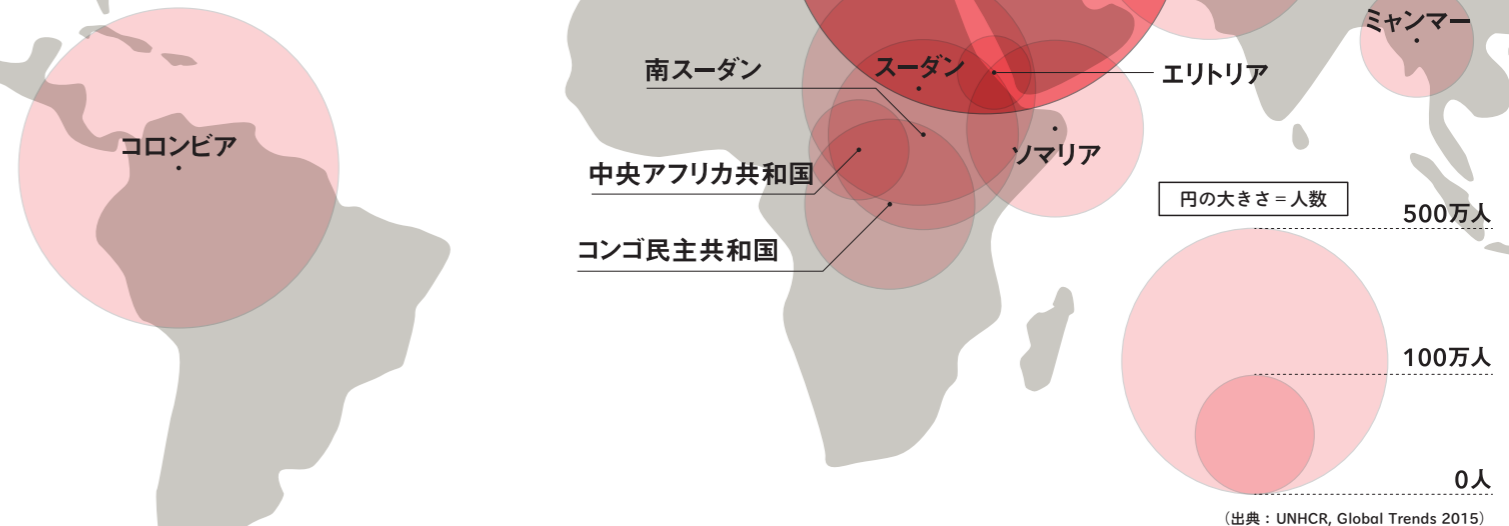
世界では紛争や騒乱、暴力が多発し続けています。多くの場合、その影響を受けるのは私たち一般市民です。けがをし、家族や友人を失うこともあれば避難を余儀なくされ、それまでのような生活を送ることができなくなります。紛争が私たちの生活にどのような影響を与えるのかを一緒に考えてみましょう。



2015年、紛争などで家を追われている人の数は**第二次世界大戦以降、過去最高 6530万人** (日本の人口の約半分) に

## 家を追われた人の 主な出身国と人数

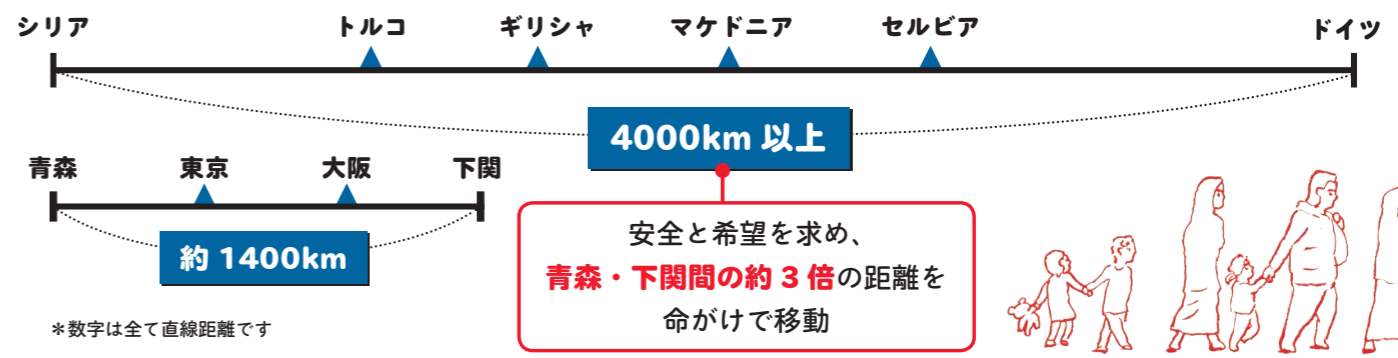
世界で最も家を追われた人が多いのはシリアです。2015年10月時点、**650万人がシリア国内で、480万人がシリア国外で避難生活を送っています。**  
(出典：UNOCHA, 2016 Humanitarian Needs Overview: Syrian Arab Republic)



家を追われ、国内外で避難を強いられているシリア人  
合計 **1130万人**

## あるシリア難民の 移動距離

気の遠くなるくらい長い道のりを徒歩やボート、電車、バスなど様々な手段で移動します。野外での寝泊まりやゴムボートでの地中海横断など、道中には様々な危険がはらんでいます。



崩れ去る「当たり前の生活」

# 爆撃で壊れた街

戦闘は、家や学校など街中を破壊します。

街に戻ってきても、今まで自分が住んでいたところを認識できないこともあります。

また、紛争後も不発弾が残っている可能性などから、街に戻ることは決して容易ではありません。

しかし、戦闘の激しい地域で、今なお生活を続ける人もたくさんいます。

## シリア・アレッポに残るムハンマドくん（14歳）の声

誰もいない道。

大きな布が道にかかっていることがある。

それは、狙撃手（スナイパー）が道行く人を狙い撃ちしにくいようにするための目隠し。

でも、時々この道にスナイパーが潜む場所だと知らずに迷い込む人がいる。

そして、ただ歩いているだけで狙撃されるんだ。

ぼくのころはもうめちゃくちゃ

これって人生って呼べるの？

人間が安くなってしまった。

1ドルで買われていく。

ぼくはもう何も感じなくなりました。

(Marcel Mettelsieffen 氏作 "Watani, My Homeland" より抜粋)

激しい戦闘のあった街にシリア赤新月社の救急車が到着 ©SARC

！ 数字で見るシリア

紛争前、シリアは生活水準が高く平和な国でした。紛争によって人びとを取り巻く環境は激変しました。

平均寿命



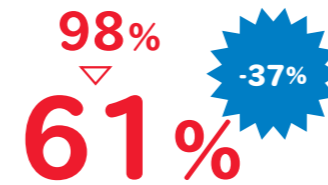
2010年に70.5歳だった平均寿命は2015年に55.4歳まで縮まりました。  
(出典：Syrian Centre for Policy Research, Syria Confronting Fragmentation! 2015)

米1kgの価格



SYP=シリアポンド。2011年から2016年の価格の推移。国内での生産の減少などにより、小麦粉や米、卵など主要な食品価格が高騰しています。  
(出典：WFP Syria Country Office, Market Price Watch Bulletin Issue 20, July 2016)

小学校入学率



2010年に100%近くだった小学校入学率は2015年に61.5%まで減少しました。  
(出典：UNESCWA/University of St Andrews, Syria at War Five Years On)

貧困層の割合



2010年に人口の28%を占めていた貧困層の割合は、2015年に83.4%にまで増加しました。収入の減少、物価の高騰、失業率の増加などが背景にあります。(出典：UNESCWA/University of St Andrews, Syria at War Five Years On)

失業率



2011年に14.9%だった失業率は2015年末に52.9%まで増加しました。  
(出典：Syrian Centre for Policy Research, Syria Confronting Fragmentation! 2015)



紛争で避難している人びとの現実

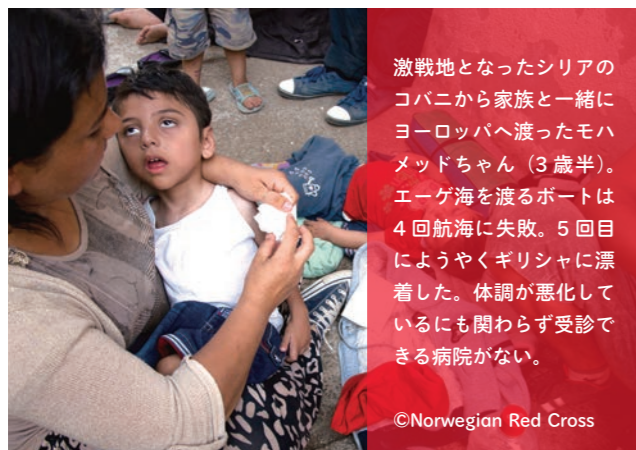
# 「家」と「学校」を失くして

爆弾や銃撃戦により、身を守ることができず  
電気や水などのライフラインが止まり、  
生活ができなくなると避難せざるを得なくなります。  
過酷な環境の中、子どもたちはどのような  
現実と直面しているのでしょうか。

治療を中断し、病と闘いながら避難先の学校に通う女の子 ©IFRC

## ！ 何千km先の見知らぬ土地へ

自分の住む地域が戦闘の舞台となり、安全を求めて  
避難しても、その道中や避難先でも苦しく危険な状況は  
続き、安心して暮らせるとは限りません。



激戦地となったシリアの  
コバニから家族と一緒に  
ヨーロッパへ渡ったモハ  
メッドちゃん（3歳半）。  
エーゲ海を渡るボートは  
4回航海に失敗。5回目  
ようやくギリシャに漂  
着した。体調が悪化して  
いるにも関わらず受診で  
きる病院がない。

©Norwegian Red Cross



家族と一緒にシリア西部  
の家からセルビアまで来  
たジョスフ・アラフィア  
くん（10歳）。トルコを  
通過中、事故に巻き込ま  
れて右足を負傷。その後  
も時々お父さんに背負っ  
てもらいながら旅を続け  
ている。

©Norwegian Red Cross

## ！ 勉強がしたい、学校に行けない

シリアの紛争は2011年に始まりました。想像してみてください。  
小学校1年生の時に紛争が始まり、6年生になる  
まで1度も学校に行けなかった子どもたちがたくさん  
いるのです。



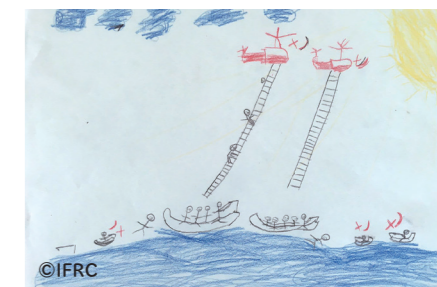
避難先のヨルダンで空き地に  
テントを張り、生活を続けている  
©IFRC

言葉の違いや、家計を助けるために働く必要性に迫られ、避難先でも多くの  
子どもたちが学校に通えない。



シリア・ホムスの破壊された学校 ©Norwegian Red Cross

学校に行くことは、とても大切です。勉強を頑張り、友達  
や先生とともに楽しい経験をすることで、悲しみや恐怖を  
乗り越えられるのです。



ギリシャ北部の難民キャンプ  
の子どもが描いたのは、ボ  
ートから落ち、溺れている人  
たち。紛争下の多くの子ども  
たちがこころのケアを必要と  
している。

©IFRC

2015年10月時点、シリアでは……

支援を必要としている人の **44%** が、子どもです。  
(1350万人中600万人)

**750万人**の子どもたちは**平和な生活を知りません。**

学校は避難所や紛争当事者の基地になることもあれば、攻撃の対象になる  
こともあります。**4校に1校が閉鎖**しており、200万人以上の子どもが学  
校に通うことができていません。授業が行われていても教室は込み合い、文  
房具などの勉強道具や教師が不足しています。

(上記は全て 出典：UNOCHA, 2016 Humanitarian Needs Overview: Syrian Arab Republic)



Q

子どもたちが  
希望を持って暮らす  
ためには、どんな支援が  
必要だと思いますか？

シリアに残されている

# 逃げるのが難しい人びと

紛争が起こると、危険を逃れるために多くの人が避難します。

しかし、その場にとどまざるを得ない人も大勢います。



## 1 包囲された地域の人

紛争当事者によって住んでいる地域や村落が包囲されてしまった場合、人びとはその地域から出ることができなくなり、外部からも救援物資などの支援を届けることができなくなります。

2016年6月時点、シリアでは540万人が支援を届けづらい地域に暮らし、そのうち59万人がこのように包囲された地域にいとされています。

(出典: UNOCHA, Syrian Arab Republic: Overview of changes to hard-to-reach areas (between January and June 20))

包囲された地域の一つであるマダヤにて、赤十字の物資を受取り、涙する女性 ©SARC

## \* 包囲された地域の支援

包囲された地域に支援を届けるためには、紛争当事者と交渉を重ね、赤十字がどの勢力にも加担しない「中立」であることが認められなければなりません。支援を届けることを許されると、包囲されていた地域の出入りが一時的に解除され、物資を運び入れ、お年寄りや病気の人など支援の必要な人びとを外に搬送することができます。通常、そのような活動は戦闘の静まる夜中から夜明けに行われます。

写真右: 2016年1月11日、長期間包囲された地域(マダヤとファ、ケフラヤ)に、国連と共同して70台の車列を組み救援物資を届ける赤十字。マダヤには4万2000人が、ファとケフラヤには2万人が暮らしている。



©SARC



©SARC

## 2 病気の人

重度の病気を抱え、定期的に病院に通う必要がある人が逃げる場合、治療を中断せざるを得ません。



©IFRC

## 4 けがをした人

爆撃などでけがをし、体が不自由になった人にとって移動は簡単ではありません。

## 3 お年寄り

お年寄りが長年暮らしてきた住み慣れた土地を離れるのには、体力も気力も必要です。



©IFRC

Q

もし自分や家族、友達がこの人たちのように紛争に巻き込まれたら、生活はどのように変わってしまうと思いますか？

国際人道法\*は、負傷した兵士や一般市民、医療従事者など戦闘に無関係な人びとを保護し、赤十字のような中立の人道支援活動を保証する国際的なルールです。しかし昨今では、国際人道法が守られずに、こうした戦闘とは無関係な人びとにも多くの犠牲が生まれています。

\*国際人道法を構成するジュネーブ諸条約には、国連加盟国を超える190以上の国が加盟しており、まさに、国籍、民族、宗教を超えた世界共通のルールと言えます。

2016年1月1日シリア・ホムスにて。  
紛争下では24時間365日休むことなく  
救護活動が行われている ©SARC

# 紛争下における赤十字の最優先 命を守る

紛争下において  
赤十字は人びとの命を最優先に守ります。  
緊急性の高いけがや病気の治療のみならず、  
遺体の埋葬など、誰かがしなければ  
ならないことを率先します。  
被災者が多くいる場合、世界各国の  
赤十字・赤新月社が連携してテント式の診療所や  
病院を立てて支援を行うこともあります。



\*赤新月はイスラム圏における赤十字。



救急車での搬送中、バイタルサイン（体温、血圧、脈拍など）を測るボランティア ©SARC

救急法の訓練を受けたボランティアやスタッフが、紛争で負傷した人びとを安全な場所に搬送し、応急処置をします。

## 救護活動



## 医療

ギリシャ北部の難民キャンプで目の洗浄をする日本赤十字社医師。キャンプは埃っぽく、目の痛みを訴える患者が絶えない

紛争でけがをした人や、避難先での不安定な生活から持病が悪化してしまった人の治療にあたります。



## 避難誘導

住民の安全確保には地元ボランティアの力が欠かせない ©SARC

自分の住む地域が戦闘の舞台となった場合には、ボランティアが住民が危険な目にあわないように安全な場所に誘導します。



## 命をつなぐ食料と水



5人家族の約1カ月分の食料。米や豆、小麦やツナ缶などが含まれている。 ©IFRC

生きるために必要不可欠な食料や水。「食料」とひとこと言っても、食材の提供や炊き出しなど状況によって内容は異なりますが、**食べ慣れているもの**をもらえると誰でもほっとしますね。

爆撃などによる**水道管の破壊**、更には**紛争当事者によって意図的にポンプ場や発電所が止められる**ことにより、人びとのもとに水が届かなくなります。赤十字は、紛争当事者の説得を試み続けるとともに破壊された水道管などのインフラ整備にも携わっています。

給水タンクを設置し、GPSを使った地図やSNSを通して市民へその場所を知らせる。



©SARC

尊厳を取り戻す

# 人間らしい生活を

戦闘の激しいシリア・ダマスカス郊外では、建設中のビルで避難生活を送る約170人の小学生のために絵かきや歌のワークショップが行われている ©IFRC

紛争が起こると、それまで当たり前できていたことができなくなり、不自由な状況が何年も続くことがあります。人間らしい生活を再開できるよう、赤十字は、支援を必要とする人びとに寄り添い続けます。



若い女性やお母さんを対象に健康相談や育児相談会を開催。状況が深刻な場合は専門家に相談することも ©IFRC



ダマスカス郊外の避難所では、子どもたちが笑顔を取り戻せるようボランティアが奮闘している ©Norwegian Red Cross

家族や友達との別れや爆撃などの恐ろしい経験は不安や悲しみ、恐怖をもたらします。周囲の人と自分の気持ちを語り合う場や、楽しい経験ができる機会を作ることで自分らしく生きる支援をします。

保健  
衛生

避難所や難民キャンプなどでは、下水処理の設備が不十分な場合や、大人数で数少ないトイレを共有することが多々あります。病気を予防するため、特に子どもたちに対して手洗いなどの衛生の知識と大切さを広めます。



ギリシャ北部の難民キャンプでピエロと一緒に手洗いについて学ぶ子どもたち ©IFRC

こころの  
ケア

生計  
支援

仕事を続けられなくなると、収入を得ることができず、生活が苦しくなります。赤十字は訓練や研修、さらには必要な道具や機材を提供し、新たな仕事に就けるよう支援します。仕事をすることは、紛争前と同じ生活を取り戻すきっかけになります。



手織りカーペット職人になるための研修 ©SARC

## 難民を支える 五十嵐さんの想い

支援の現場を訪れると、「シリアに遊びに来て！」とよく言われます。私たちと同じように生活していたシリアの人びと。紛争によってそれまでの暮らしを奪われ、国内外へ避難しても彼らが故郷を想う気持ちは変わりません。愛する国が綻んでいっても、いつかシリアへ帰れる日を夢見ています。母国を思い遣り、その美しさを誇りとする彼らの尊い想いを大切にしながら、せめて住む場所や食べ物だけでもある場所を作り、いつか温かい、そして勉強のできる暮らしを取り戻せるよう支えていきます。

日本赤十字社 中東地域首席代表  
五十嵐真希（レバノン）



©Lebanese Red Cross



# 新潟の小学生が 起こした行動

募金お願いします!

青少年赤十字加盟校である新潟県の新発田市中浦小学校の六年生は、総合学習の時間で、紛争や飢餓、貧困、難民などの国際問題について学び、その過程で募金活動を見直しが発案。主体的に企画・準備を進め、実施しました。

\*青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びとの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。



人のために何かできることはないか

(Aさんの作文より)

私たちはひたすら叫んで訴える。募金活動中は、誰もいなくても人が来るまで叫んでいた。

一日目。地域のスーパーマーケットでの募金活動。不安だったが、出だしはいいスタートになった。「募金お願いします」あちこちから声が飛んでくる。初めてなのにみんな声が出ていてよかった。ポスターが人に見えるよう方向を変え、チラシを積極的に渡し、募金箱を笑顔で持った。みんなも私も手応えを感じた。

翌日もスーパーマーケットでの募金活動。昨日のせいか、みんなうきうきしていた。人のために何かできることはないか。それはやっぱり募金活動だった。ついに始まる。私たちは、最初店内で呼びかけた。まだ早いのかあまり人が来なかった。

チラシを配っても「いや、いいです」とか、ジエスチャーで「いらぬ」とやってくる人がいた。私は悔しかった。でもめげたらおしまいだから、悔しくても我慢して叫び続けた。そうしたら、あつというまに交代時間。びっくりしたけど、時間を忘れるくらいがんばったんだと思い、調子が出てきた。

次は入口。私は寒さを忘れ、友達と一緒に外へ出た。いろいろな人から励ましの言葉をもらった。私は嬉しかった。「小学生ががんばっているんだもん募金しなきゃね」などと言ってくれる人がいた。がんばりが伝わっているんだと思い嬉しかった。叫び続けていると、お店の方たちが募金をしてくれた。みんなあたたかいと私は思った。

私たちに募金活動をさせてくれたお店も優しいお店だと知った。そして募金してくれた方々にとっても感謝している。私は喜びにあふれている。このお金で世界を少しでも救えるなら、これ以上の喜びはない。

「苦しんでいる人のため」が、

「いつしか自分の喜び」に

(6年担任)

紛争地域の状況を知っても、「誰か助けてやる人はいないのか」「日本に生まれてよかった」など他人事としか捉えることができなかった子どもたち。しかし、話し合いと学びの振り返りを重ねるうちに、「自分たちにはできることはないか」と考え始め、やがて募金活動の発案に至りました。文化祭では子どもたちが平和を訴え「生懸命演じた劇に対し、観客から「感動した」と大きな拍手をいただきました。その直後に行った初めての募金活動は大成功。子どもたちは「自分たちにも紛争地域の人びとを支援できる」と実感したようです。「がんばっているね」と声を掛けられるなど、子どもたちにとっては充実感と達成感を伴う活動となりました。

「苦しんでいる人たちのため」に始めた募金活動ですが、学びを重ねるうちにそれが徐々に「自分の喜び」に変わっていききました。子どもたちには、やりがいと誇りを感じながら自分たちで社会を作っていく能力や意欲を身につけてほしいと考えています。



写真は全て © 中浦小学校

Q

どんなアクションが、紛争の被害にあっている人びとの支援につながると思いますか？

③ 私たちができることはあるの？

# 7原則のもと 赤十字は、シリア紛争の 犠牲者を支援しています。



国の人道事業の補助を行う赤十字が担う使命は、その国の力によって違います。紛争が続き、国際社会の支援なしでは運営が成り立たない国においては、日本の行政が担うような救急車サービスや給水なども赤十字が行い、人びとの支援・保護にあたっています。

紛争中を含め、いかなる状況下でも赤十字が活動できるのは、この7つの原則によって支えられているからです。



紛争の犠牲となっている人びとに寄り添い、人間の尊厳と生活を守ることが赤十字の使命です。

争いには加わず、最も助けが必要な人を優先します。



©IFRC

©SARC

©IFRC / Belgian Red Cross

©SARC

## 人道

赤十字は、戦場において敵味方の差別なく負傷者を救護するために生まれました。人間の命、健康、尊厳を守り、苦痛の予防と軽減に努めます。

## 公平

いかなる差別もせず、苦痛の度合いに従って個人を救うことに努め、最も急を要する困苦を真っ先に支援します。

## 奉仕

赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織です。赤十字が支援ができるのは、物質的、金銭的そして時間を提供するボランティアの支えがあるからです。

## 単一

いかなる国にもただ一つの赤十字社しか存在せず、全ての人に門戸を開いています。そして、赤十字はその活動を全土で行います。

## 中立

全ての人から信頼を得て活動できるように、政治的、人種的、宗教的または思想的争いの、いずれの勢力にも参加しません。

## 独立

赤十字は、各国政府の人道事業の補助を行う公共的な役割を担っていますが、組織運営、意思決定においては政府から独立し、赤十字としての自主性を保ちます。

## 世界性

赤十字は世界的機構です。各国で自国民を対象に活動しますが、ある国が自国の能力を越える規模の災害に見舞われた場合には、他国の赤十字社が援助します。

「利己心」「無関心」「理解力の不足」「想像力の欠如」は人道の4つの敵とされています。終わりの見えないシリア紛争。同じ世界に暮らす私たちに今できることは何でしょう。



©SARC



「もし、紛争の被害者が  
自分だったら」  
あなたは、何を  
必要としますか？

## 中東人道危機救援金にご協力ください。

ご協力方法 ≫ クレジットカード・郵便局・お近くの赤十字窓口

日赤 中東

検索

<http://www.jrc.or.jp/>

日本赤十字社 東京都港区芝大門1丁目1番3号

本冊子に関するお問い合わせ 事業局国際部 TEL 03-3437-7088

寄付に関するお問い合わせ 事業局パートナーシップ推進部 TEL 03-3437-7081

表紙写真：ギリシャ北部でテント生活を余儀なくされている8歳と6カ月のシリア人兄弟 ©Finnish Red Cross  
裏表紙写真：ヨーロッパを目指す人びとの玄関口となっているギリシャにて ©Finnish Red Cross

 日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society